

世界 LNG 動向 2021 年 5 月

橋本裕*

はじめに

北東アジアのアセスメントされたスポット LNG 価格が堅調に推移している。2021 年に入ってから北東アジア地域の旺盛な LNG 需要、一部 LNG 生産設備の不調、堅調な欧州ガス市場の影響もあり、2021 年 4 月中旬以降は、2015 年以降で、最も高い水準で推移している。

欧州市場では、ロシアのパイプラインガス輸出に限度もあり、4 月の季節外れ寒気で欧州在庫水準が数年振り低迷、石炭からガスへの転換の経済性改善、さらに前記の通り、北東アジアでの LNG 在庫再充填需要、中国では石炭からガスへの転換政策が加速により、世界的にガス価格が堅調である。

北東アジア 4 大 LNG 市場（日本、韓国、中国、台湾）の LNG 輸入量は、2021 年 1 - 4 月累計で 7730 万トンと、前年同期比 13%増加となった。これら 4 市場合計の LNG 輸入量は、1 月から 4 月まで、連続して各月、前年同月比を上回った。特に中国の LNG 輸入は 1 - 4 月累計で前年同期比 29.6%増の 2620 万トンとなった。同国の 2021 年 1 - 4 月の天然ガス消費は 1220.1 億 m³ と前年同期比 16.8%増となった。

LNG 生産プロジェクト開発面では、GHG 排出管理対応の動きが目立つ。米国では、Venture Global LNG が、2021 年 5 月末、建設中の Calcasieu Pass、計画中の Plaquemines LNG 設備で、CCS を実施する計画を発表した。ロシアでは、建設中の Arctic LNG 2 プロジェクトのパートナー NOVATEK、TotalEnergies が、2021 年 6 月初、脱炭素化、水素、再生可能エネルギーに関して覚書（MOU）締結を発表した。

5 月末には、日 EU 首脳会談で、両者のグリーンアライアンスの発表があった。この中で両者は、天然ガスがエネルギー・気候移行において重要な役割を果たすとの認識を確認した。

[アジア太平洋]

JERA は、2021 年 5 月 11 日、ブルーアンモニア製造プロジェクトの開発を含むアンモニアバリューチェーンの構築に関し、世界最大手の窒素系肥料メーカーである、Yara International ASA との間で覚書を締結したことを発表した。Yara International が豪州に保有するピルバラ・アンモニア製造プラントをブルーアンモニア製造プラントに改良すること、新規ブルーおよびグリーンアンモニア製造プロジェクトの共同開発、アンモニアの海

* 化石エネルギー・国際協力ユニット ガスグループ

上輸送の最適化、日本での発電需要を含むアンモニア需要開拓および供給で協業を検討していくとしている。

JERA、IHI は、5 月 24 日、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業「カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／アンモニア混焼火力発電技術研究開発・実証事業」に採択されたことを発表した。石炭火力発電機のアンモニア混焼技術を確立することを目的とした実証事業で、事業期間は 2021 年 6 月から 2025 年 3 月となる。JERA の碧南火力発電所 4 号機 (100 万 kW) にて、2024 年度にアンモニア 20%混焼を目指す計画。

横浜市は、2021 年 5 月 28 日、郵船クルーズ株式会社、日本郵船株式会社、エコバンカーシッピング株式会社との 4 者間で覚書を締結、LNG 燃料クルーズ船の円滑な受入れや安全な燃料供給などに向けた検討を連携して行っていくこととしたことを発表した。

商船三井 (MOL) は、5 月 18 日、35,000 m³型アンモニア/LPG 輸送船 "Green Pioneer" (グリーンパイオニア) によるアンモニア輸送事業への再参画を決定し、アンモニアトレーダー Trammo 社との定期備船契約を締結したことを発表した。

石油資源開発 (JAPEX) は、5 月 13 日、「JAPEX2050 - カーボンニュートラル社会の実現に向けて」(「JAPEX2050」) を発表した。

日本海ガスと INPEX は、5 月 31 日、カーボンニュートラルガスの売買に関する契約を締結したことを発表した。

韓国ガス公社 (Kogas) は、5 月 28 日、GS Caltex と LNG 超低温を利用した液体水素生産に関して基本合意 (MoU) を締結したことを発表した。年間 10,000 トンの生産容量を持つ液体水素水素ステーションが、ソウル首都圏、将来は同国中部地域に液体水素を供給することとなる。水素は LNG から抽出され、LNG 超低温を利用して液化、貯蔵される。両社はさらに、水素抽出設備建設、CCU 技術実証・実用化を検討することも決めた。

韓国ガス公社 (KOGAS) の LNG バンカリング子会社 Korea LNG Bunkering は、5 月 6 日、慶尚南道巨済にあるサムスン重工業 (SHI) の造船所で、船舶間供給 (STS) 方式での LNG 供給実施を発表した。LNG バンカリング船「SM JEJU LNG 2」より、180,000 m³ LNG 輸送船 (船主: GASLOG) に、4,400 m³ (2,000 トン) の LNG を供給した。

大宇造船海洋 (DSME) は、5 月 28 日、現代 LNG 海運向け 174,000 m³ LNG 輸送船舶 1 隻を、玉浦造船建造で、受注したことを発表した。引き渡しは 2023 年第 4 四半期の予定。Repsol 向け定期備船が予定されている。

シンガポール FueLNG、MPA (海事・港湾当局)、Keppel Offshore & Marine (Keppel O&M)、Shell は、2021 年 5 月 7 日、FueLNG が自国で初めて LNG 燃料の石油輸送船舶向けにバンカリングを完了したことを発表した。FueLNG は Keppel O&M ・ Shell Eastern Petroleum (Pte) Ltd 間の合弁事業。LNG 燃料の石油輸送船舶 'Pacific Emerald' に、自国初の LNG バンカリング船舶 FueLNG Bellina から、3,000 m³ の LNG 移送を含め、ガス置換およびクールダウンを完了した。Pacific Emerald は、Shell Tankers Singapore

(Private) Limited が Sinokor Petrochemical Co Limited から傭船する Aframax 新造輸送船舶 10 隻中最初の 1 隻である。

商船三井 (MOL) は、5 月 17 日、伊藤忠商事、伊藤忠エネクス、Vopak、Pavilion Energy、Total Marine Fuels と、シンガポールにおける船用アンモニア燃料サプライチェーンの共同開発に関する覚書 (MOU) を締結したことを発表した。

Total は、5 月 26 日、MGTC (Moattama Gas Transportation Company Limited) からその株主 (Total (31.24%), Chevron (28.26%), PTTEP (25.5%), MOGE (15%)) への配当支払いが停止された、と発表した。MGTC ガス輸送網は、Total Exploration & Production Myanmar が操業する Yadana ガス田から生産されるガスを、ミャンマー・タイ国境まで 400 km 輸送している。

ミャンマー政府傘下の投資委員会 (MIC) は、5 月 7 日、LNG 火力発電を含む発電、畜産、製造その他 15 件の新規プロジェクトを承認した、と発表した。

Stena Power & LNG Solutions は、5 月 18 日、Delta Offshore Energy (DOE) により、Stena のジェティなし LNG 移送・気化方式利用のため基本設計 (FEED) を受注したと発表した。DOE は、Stena のジェティなし浮体基地 (JFT)・自立気化プラットフォーム (SRP) を、ベトナムのバクリユウ県での 3.2 GW 発電プロジェクト燃料供給に用いることとなる。ベトナムの地元報道によると、米 Millennium Energy Corporation が、南部カインホア省バンフォン経済地区南部に、LNG 受入基地・発電設備に投資する。

Shell は、5 月 20 日、Shell Petroleum N.V. が Malampaya Energy XP Pte Ltd (Udenna Corporation 子会社) との間で、Shell Philippines Exploration B.V. (SPEX) 株式 100% 譲渡の契約を締結したことを発表した。SPEX は、Malampaya ガス田を含む SC38 鉱区 45% オペレーター権を持つ。年末までの取引完了を目標としている。同鉱区参加他企業は、Udenna Corporation 子会社 UC38 LLC (45%)、Philippine National Oil Company Exploration Corporation (10%) である。

NDRC (国家発展和改革委員会) によると、中国の 1-4 月の天然ガス消費は 1220.1 億 m³ と前年同期比 16.8% 増。貿易統計によると、4 月の LNG 輸入は前年同月比 33.6% 増の 673 万トン、1-4 月累計で前年同期比 29.6% 増の 2620 万トンとなった。

GTT は、5 月 24 日、中国寰球工程有限公司 (HQC) から、メンブレンフルコンテナメント LNG 貯蔵タンク 4 基の設計を受注したことを発表した。北京燃气集团 (BGG) 天津 LNG 基地向けに 3 月、BGG と GTT 間で締結された協力協定の一環とされる。2023 年第 3 四半期引き渡し予定である。

北京燃气は、2021 年 5 月 31 日、上海石油天然气交易中心 (SHPGX) に、2023 年から 2032 年までの LNG 供給に関する関心表明を求める公告を行った。候補供給者は、2021 年 7 月 21 日までに提出を求められている。

インド石油類・天然ガス省 PPAC (Petroleum Planning & Analysis Cell, Ministry of Petroleum & Natural Gas) の天然ガス月報によれば、4 月、インドの天然ガス生産は 26.51

億 m³・前年同月比 22.7%増、LNG 輸入は 26.55 億 m³・同 45.2%増。ガス消費は 48.59 億 m³・同 24%増。1-4 月ガス消費は 191 億 m³・前年同期比 8.7%増。

Total は、5 月 20 日、ArcelorMittal Nippon Steel (AMNS) との間で、最大年間 500,000 トン・2026 年までの供給に関して契約を締結したことを発表した。Total のグローバルポートフォリオから調達され、インド西岸 Dahej または Hazira 基地で荷揚されることとなる。AMNS はこの LNG を、グジャラート州ハジラの製鉄・発電設備に用いることとなる。

パキスタンの Pakistan LNG Limited (PLL) は、2021 年 5 月 29 日、140,000 m³ の LNG カーゴ 9 件、7 月 8 日から 8 月 28 日の引き渡しで、応札期限 6 月 2 日の入札招請を行ったことを発表した。同国の石油・ガス規制機関 Ogra は、Shell Energy Pakistan (Pvt) Limited に、ガスマーケティングライセンスを承認した。

Woodside、IHI、丸紅は、5 月 20 日、豪州・タスマニアにて、水力資源を活用した再生可能エネルギー由来のアンモニア (グリーンアンモニア) 製造・輸出の事業性を検討・調査する覚書 (HOA) を締結したことを発表。3 社は、タスマニア州ベルベイでグリーンアンモニア生産を検討している。水素の製造に使用する水電解装置容量は、当初小規模で開始、最終的には 250 MW まで拡張することによりアンモニア製造量を増やす計画としている。

豪 Australian Gas Infrastructure Group (AGIG) は、5 月 19 日、子会社 Australian Gas Networks (AGN) が、水素生産設備 Hydrogen Park South Australia (HyP SA) を開業、サウスオーストラリア州アデレードの天然ガス配給網向けに再生可能水素混合を開始した、と発表した。

豪 Edify は、5 月 25 日、ニューサウスウェールズ州 (NSW) 南西に、電池プロジェクトを実施していることを発表した。Riverina Energy Storage System (RESS) と称し、100MW / 200MWh リチウムイオンバッテリーが TransGrid 送電網に接続する。RESS は Shell Energy・NSW 政府向けに開発され、Shell Energy は 60MW / 120MWh 分について操業権にアクセスする長期業務委託契約を締結した。

豪 Venice Energy は、5 月 5 日、アデレード港 Outer Harbor プロジェクト向け FSRU (浮体貯蔵・気化機器) 供給者選定を確定した、と発表した。同社は 2020 年 12 月、FSRU 入札を開始した。2021 年 3 月初、詳細オファー 3 件に絞り込まれた。同社は、欧州からの世界的な独立系 LNG 船主・運航企業と基本合意 (HOA)、基本条件 (TS) を締結。

豪 Woodside は、5 月 27 日、自社が操業する Pluto LNG 設備に太陽光発電 50 MW を供給する計画であることを発表した。この太陽光発電は、計画中の Woodside Power プロジェクトから供給される。Perdaman との間でも、同社計画中の尿素製造設備向けに 50 MW の太陽光発電を供給する検討を行うことを発表している。

WA Kaolin Ltd は、5 月 26 日、自社 Wickepin Kaolin プロジェクト向けに、Clean Energy Fuels Australia (CEFA) グループ企業 Mid-West LNG Pty Ltd (MWLNG) との間で、LNG 供給の 15 年契約を締結した、と発表した。高陵石乾燥のための回転窯燃料に用いる。MWLNG は、Mount Magnet に新規 LNG 設備を建設中で、WAK はその 2 件目の顧客と

なる。Mount Magnet LNG 設備は日量 500 トン容量を持つ見込み。契約は 2022 年 1 月から 15 年間となる。

日揮は、2021 年 5 月 10 日、KBR、千代田化工建設とのジョイントベンチャー (JV) が、ICHTHYS LNG PTY Ltd より、訴訟を提起されたことを発表した。

INPEX は、5 月 24 日、豪州でのエネルギー生産のコスト、カーボン排出の削減を目指す新技術研究開発のための業界団体 Future Energy Exports Cooperative Research Centre (FEnEx CRC) との合意を発表、この提携で 150 万豪ドル資金を提供し、LNG 生産バリューチェーンの効率、デジタル技術、水素の輸出等のスタディを支援する、と述べた。

豪 Santos、Eni は、5 月 3 日、豪州北部・東ティモールでの事業機会に協力する基本合意 (MOU) を締結したことを発表した。協力分野は、LNG 拡張開発につながる Barossa、Evans Shoal を中心とするガス田開発、ダーウィンへのパイプライン、陸上ガス処理設備に伴うインフラストラクチャー共有可能性によるシナジーの評価である。東ティモール政府との合意次第となるが、CCS プロジェクト含め、LNG プロジェクト延命のための Bayu-Undan 諸設備改造オプションの検討も含む。他協力分野としては、Petrel、Tern ガス田を Blacktip/Yelcherr ガス設備を通じて開発する可能性も含まれる。

Bayu-Undan 合弁事業オペレーター Santos は、5 月 25 日、ティモールレステ領海内 Bayu-Undan ガス田 3C 追加掘削を開始したと発表した。1 月に最終投資決定 (FID) しており、生産井 3 本を予定、ガス田寿命、沖合設備・Darwin LNG 設備の生産を延長する。

マレーシア PETRONAS は、5 月 7 日、PETRONAS LNG Ltd (PLL) がカナダ AECO 指標を、自社顧客向け新たな LNG 価格指標として導入した、と発表した。マレーシアのビントゥルより、8 月引き渡し予定で、アジアの買主向けにスポット LNG カーゴを販売した。

PTT Exploration and Production Public Company Limited (PTTEP) は、5 月 19 日、マレーシアのサラワク州沖 SK438 鉱区最初の探査井 Kulintang-1 でガス資源の発見を発表した。この位置は連続的な開発も含めて将来の開発に優位性がある、と述べた。PTTEP は 80%を持つオペレーターで、PETRONAS Carigali が残り 20%を所有している。PTTEP は親会社 PTT とともに PTT Global LNG Company を通じて、同州 MLNG 第 9 系列プロジェクトに参加している。

Total は、5 月 5 日、パプアニューギニア政府・オペレーターとして自らが、Papua LNG プロジェクト諸活動を再開したと発表した。FEED (基本設計) を 2022 年初に開始、2023 年最終投資決定 (FID) に備えるとしている。同プロジェクトは、PRL-15 鉱区の Elk・Antelope 資源を対象とする。両ガス田生産は、既存 PNG LNG 諸設備へと統合されることとなる総容量年間 560 万トンの 2 系列により液化すべく、320 km 陸上・海底パイプラインにより Caution Bay 地点まで輸送される。Total は、Elk・Antelope 陸上ガス田のオペレーターであり、PRL-15 鉱区では、同国政府の 22.5%参加権を織り込み後、31.1%を持つ最大所有者で、パートナーは ExxonMobil (28.7%)、Oil Search (17.7%) となる。

[北米]

米連邦エネルギー長官は、2021 年 5 月 28 日、政権は脱炭素化した天然ガス含むクリーン技術を促進、売り込みたい、と述べた。連邦エネルギー省 (DOE) は、4 月 23 日、カナダ、ノルウェー、カタール、サウディアラビアのエネルギー相間で、ネットゼロ生産諸国フォーラム設立共同声明を発表した。

米連邦エネルギー省 (DOE) データによると、3 月の LNG 輸出量は 660 万トンと過去最高となった。Sabine Pass からは 35 カargo、237 万トンが出荷された。

第 1 四半期、SEC (米連邦証券取引委員会) への 10-Q 報告によると、Cheniere Energy の Sabine Pass LNG 第 6 系列は 83%完成しており、2022 年上半期までに完成見込みである。エンジニアリングは 99.6%、調達率は 99.9%、建設は 61.7%完了となっている。

Cheniere Energy は、5 月 4 日、Sabine Pass Liquefaction, LLC が Shell 向けに、両社間の長期 LNG 売買契約の一環として、カーボンニュートラルカargo 1 隻を供給した、と発表した。両社は、この LNG カargoに伴うバリューチェーン全体・生産から最終消費者利用まで (全 3 スcope含む) 推定 CO_{2e} 換算排出を、自然に基づく相殺に共同した。このカargoは 4 月初、欧州に引き渡された。利用された相殺は、Shell の自然に基づくプロジェクトのポートフォリオから購入され、Cheniere は上流から FOB 引き渡し点までの推定 CO_{2e} 換算排出に伴う部分を購入した。

GTI は、5 月 27 日、Queen Mary University London が Collaboratory to Advance Methane Science (CAMS)・Enagás SA の協力を受け、運航中の LNG 輸送船舶に関して、メタン排出直接測定という初のスタディを実施したことを発表した。Cheniere が備船している新造 GasLog Galveston の船上で、Cheniere の Corpus Christi 液化設備から欧州への往復航海の間に、エンジン排ガス・排出などのデータが収集された。

米 Sempra Energy は、5 月 5 日、第 1 四半期業績説明会の中で、Port Arthur LNG の最終投資決定 (FID) が 2022 年に延期される可能性が高い、と述べた。同プロジェクトの温室効果ガス (GHG) 排出を削減し、グローバルエナジートランジションにおける競争上の位置の改善、パンデミックの世界エネルギー市場に対する影響に対応するため、様々なオプションを検討している、としている。

Tellurian、Gunvor は、2021 年 5 月 27 日、年間 300 万トン、10 年間、JKM / TTF 混合連動・輸送費分ネットバックの LNG 売買契約 (SPA) を締結したことを発表した。さらに Tellurian は、6 月 3 日、Vitol との間で、年間 300 万トン、10 年間、JKM / TTF 混合連動・輸送費分ネットバックの SPA を締結した、と発表した。いずれも、Tellurian の Driftwood LNG から FOB 条件引き渡しとしている。

Venture Global LNG は、5 月 27 日、Calcasieu Pass、Plaquemines LNG 設備で CCS を実施する計画を発表した。同社は両地点で推定年間 500,000 トンのカーボン回収・貯留する、とした。CP2 LNG 設備も承認されれば、年間 500,000 トンのカーボン回収・貯留する同様のインフラストラクチャーを用いることを見込んでいる。Calcasieu Pass 設備

でこの CCS 技術を配備すれば、米国の LNG 設備で初となる。

Pivotal LNG は、5 月 6 日、フロリダ州ジャクソンヴィルのセントジョン川沿い JAX LNG 設備が、液化容量を日量 360,000 ガロン（年間 22.4 万トン）に 3 倍増、貯蔵容量を 400 万ガロン（6,813 トン）に 2 倍増する拡張を進めていることを発表した。この拡張は 2022 年初稼働開始見込み。JAX LNG は、2018 年に営業を開始、BHEGT&S 子会社 Pivotal LNG、NorthStar Midstream 間の合弁事業である。液化拡張建設は、Salof Ltd. を中心に進行中。貯蔵拡張は、JAX LNG が中小 LNG 液化・貯蔵設備主導的企業 Matrix Service Company とともに作業を進めている。Matrix は 2020 年 12 月、新規 200 万ガロン貯蔵タンクの屋根揚げを完了した。2019 年、NorthStar は LNG 海洋輸送企業 Polaris New Energy を設立した。Polaris は 5400 m³ LNG バンカーバージを Fincantieri Bay、統合型タグを Master Boat Builders で建造している。

G2 Net-Zero LNG は、2021 年 5 月 6 日、NET Power ・ G2 Net-Zero LNG が、プレ FEED（基本設計）報告を受け新たな基本合意（LOI）を締結した、と発表した。G2 は自社の Net-Zero LNG 輸出設備に関して、NET Power の天然ガス液化プロセスから CO₂ 排出を全て除去する Allam-Fetvedt Cycle 技術を織り込む最初の案件となる、と述べた。G2 Net-Zero LNG はさらに、早ければ 2027 年に、上流から出荷まで、ネットゼロ炭素排出の世界最初の LNG 輸出・工業用ガス生産設備を建設する、と述べた。Net-Zero LNG 生産に先立ち、G2 は CO₂ 排出を全て回収するアルゴン、窒素、酸素など工業用ガス製造を計画している。

GAC Bunker Fuels Limited は、2021 年 5 月 4 日、Puget LNG, LLC ・ GAC Bunker Fuels が、Puget LNG の基地から GAC の太平洋岸北西部地域における顧客向けの LNG 海洋燃料供給販売に協力する基本合意を締結した、と発表した。Tacoma LNG 基地が第 2 四半期稼働開始すれば、北米西海岸でバンカーバージに直接積み込みを行う最初の設備となる。

米テキサス州コーパスクリスティ港湾当局は、5 月 4 日、Stabilis Solutions Inc. とともに、自港での海洋燃料として LNG 利用を推進する基本合意（MOU）を締結した、と発表した。LNG 燃料供給支援のため、同港側は、陸側から船舶への燃料供給のため棧橋敷地へのアクセスを提供し、Stabilis は、自社のテキサス州南部の LNG 生産設備からの LNG 輸送・供給機器を含め、既存の輸送手段を投入する。

Stabilis Solutions は、6 月 1 日、ルイジアナ州 Port Allen の LNG 生産設備を HR Nu Blu Energy から買い取り完了した、と発表した。2018 年に建設された同設備は設計生産容量日量 30,000 ガロン（48 トン）で、Stabilis 総公称生産容量を 30%増加する。

Chevron は、2021 年 5 月 11 日、自社がカリフォルニア州の再生可能天然ガス（RNG）供給者 Clean Energy Fuels Corporation とともに Adopt-a-Port の計画に、追加 2000 万米ドルを投資する、と発表した。Chevron はこれまでに、ロサンゼルス港、ロングビーチ港に RNG を供給するトラック運行企業に供給するこの計画に 2800 万米ドルを投資したこととなる。

ExxonMobil は、5 月 26 日、株主総会開票速報に基づき、自社指名 8 名、 Engine No. 1 指名 2 名が取締役に選出されたと発表した。同社は、6 月 2 日、この結果速報を更新、ExxonMobil 指名 9 人、 Engine No. 1 指名 3 人とした。

第 1 四半期、SEC（米連邦証券取引委員会）への 10-Q 報告によると、New Fortress Energy Inc. は、メキシコのバハカリフォルニア州ピチリングエ港 ("La Paz")、ニカラグアのサンディーノ港 ("Puerto Sandino") で、それぞれ LNG 気化基地・発電設備を開発している。当初 La Paz 設備は LNG 日量 27 万ガロン（年間 15.8 万トン）を 100 MW 発電用に供給する見込み。Puerto Sandino では 300 MW 発電設備を建設中で、LNG 日量 70 万ガロン（年間 40.7 万トン）を消費することとなる。

Kinder Morgan, Inc. は、6 月 1 日、Consolidated Edison ・ Crestwood Equity Partners LP 間の天然ガスパイプライン・貯蔵の合弁事業 Stagecoach Gas Services LLC の買い取りに合意したことを発表した。Stagecoach は、天然ガス貯蔵設備 4 件 FERC 許可有効稼働ガス貯蔵容量 410 億立方フィート (85.3 万トン)・KMI 子会社 Tennessee Gas Pipeline (TGP) 等主要州際天然ガスパイプライン複数と相互接続する天然ガスパイプライン 185 マイル (298 km) で構成される。取引は 2021 年第 3 四半期完了見込み。

米 Equitrans Midstream Corporation は、5 月 4 日、自社第 1 四半期財務・操業業績報告の中で、Mountain Valley Pipeline (MVP) JV は、2022 年夏を稼働開始目標とすることを明らかにした。

Southwestern Energy は、6 月 2 日、Haynesville での生産企業 Indigo Natural Resources と公式の合併契約に合意したことを発表した。取引は、第 4 四半期初頭に完了見込み。

米 EQT Corporation は、5 月 6 日、Alta Resources Development, LLC との間で、EQT が Alta の上流・中流部門子会社持分を全て取得する契約を締結したことを発表した。

EQT Corporation は、4 月 15 日、自社が生産する天然ガスの大半について、Equitable Origin、MiQ が構築を進めている証書基準により、独立証書を求めるコミットメントを発表した。年内に証書を得る見込み。EQT は、ペンシルベニア州グリーン、ワシントン郡の井戸元 200 件以上から生産される天然ガス井戸元数量 (総量) 日量 40 億立方フィート程度に関して、Equitable Origin ・ MiQ 証書を得る計画である。これら証書により、EQT としてはやはり同州南西部の井戸元 2 件から生産されるガスについて Project Canary による証書を得る 1 月の発表に続き、自社の証書付天然ガス、あるいは責任ある調達によるガスのポートフォリオを拡大することとなる。発表によれば、Equitable Origin ・ MiQ との証書化が完了すれば、EQT の証書付天然ガス生産は米国天然ガス生産の 4.5% を占めることとなる。Equitable Origin、MiQ は、EQT の一部井戸元の天然ガス生産について、メタン排出を含む環境・社会・ガバナンス (ESG) 上のパフォーマンスに焦点を置いて、独立・第三者の監査を受けた評価を監督することとなる。

Xcel Energy は、5 月 12 日、自社コロラド州操業向けに、Crestone Peak Resources が生産した証書付低排出強度の天然ガスを購入する、と発表した。Xcel Energy は、2050 年

までに 100%カーボンなしの電力を供給する目標を発表した米国で最初の大手発電企業だった。証書付 RSG（責任ある調達によるガス）基準を満たすため、デンバーに本社を置く Crestone Peak Resources は Project Canary による独立リアルタイムメタン排出監視・TrustWell™ 証書プロセスを活用することとなる。

AVANGRID は、2021 年 5 月 11 日、米連邦海洋エネルギー管理局（BOEM）が、米国で初の商業ベースの洋上風力発電設備となるニューイングランド地方マーサズヴィンヤード沖 800 MW Vineyard Wind 1 風力発電設備を承認した（ROD）ことを確認した。

RWE Renewables、National Grid は、5 月 20 日、米北東部沿岸での洋上風力プロジェクト開発での協力協定締結を発表した。

5 月中旬、ロサンゼルス市議会で、Aliso Canyon 天然ガス貯蔵設備の廃止を求める決議がなされた。

石油資源開発（JAPEX）は、5 月 13 日、子会社 JAPEX Montney Ltd.（JML）を通じて参画しているカナダシェールガスプロジェクトについて、JML が保有する鉱区権益 10% 全てをオペレーターの Petronas Energy Canada Ltd.（PECL）へ譲渡することを、決めたことを発表した。

Woodside は、5 月 18 日、カナダのブリティッシュコロンビア州 Kitimat LNG（KLNG）開発への非操業参加権 50%を処分することを決めたことを発表した。480 km Pacific Trail Pipeline 経路および Bish Cove での LNG 設備用地の処分・清算が含まれる。Liard Basin 上流ガス資源の持分は、将来の天然ガス、アンモニア、水素機会を検討する低コストのオプションとして維持する。Chevron は自社の KLNG における 50%持分を処分する計画を、2019 年 12 月に発表した。

太平洋油气有限公司（Pacific Oil & Gas Limited (PO&G)）子会社カナダ Woodfibre LNG は、2021 年 5 月 6 日、BP Gas Marketing Limited（BPGM）との間で、ブリティッシュコロンビア州スクワミッシュ近くの輸出設備からの LNG について 2 件目の LNG 売買契約（SPA）を締結した、と発表した。BPGM は、本船渡し（FOB）条件で、15 年間、年間 75 万トンを引き取る。今回の SPA により、BPGM による引き取り総量は年間 150 万トンと、Woodfibre LNG の将来の年間生産の 70%超まで増加する。

Pieridae Energy は、5 月 27 日、自社カナダのアルバータ州 Caroline 設備でのカーボン回収・貯留、発電設備設置計画を発表した。年間 300 万トンの CO₂ を枯渇ガス層のひとつに吸収する見通し。これは Goldboro LNG 設備の排出量に相当する。第 1 段階では、年間 100 万トンの CO₂ を貯留し、200 MW あるいは年間 19 億 kWh のブルー発電を行う。

カナダ Pembina Pipeline Corporation、Inter Pipeline Limited は、6 月 1 日、前者が後者を買収することで合意した、と発表した。この取引により、天然ガス、天然ガス液（NGL）、原油の井戸元から最終需要家をつなぐ統合された資産基盤を持つカナダ最大級のエネルギーインフラストラクチャー企業を生むこととなる。

カナダ GNL Québec、ドイツの Hanseatic Energy Hub は、6 月 3 日、カナダからドイツ

への「低 GHG 排出」LNG 輸出に向け戦略パートナーシップを発表した。LNG Québec の Énergie Saguenay カーボンニュートラル輸出設備から、Hanseatic Energy Hub のドイツのハンブルグ近くシュターデでのカーボンニュートラル気化基地への LNG 輸入に関して、標準・プロセスを検討することに合意している。

New Fortress Energy (NFE) は、5 月 25 日、自社プエルトリコ LNG 設備に関して、コロンビア特別区連邦控訴審に審理を申し立てたことを発表した。連邦エネルギー規制委員会 (FERC) は 3 月、この設備が連邦天然ガス法 (NGA) 下で自管轄対象となると判断したが、NFE は FERC に再検討を要請し、却下されていた。

[中東]

アブダビ Abu Dhabi National Oil Company (ADNOC) は、2021 年 5 月 24 日、ルワイスでのブルーアンモニア生産設備計画を推進する、と発表した。設計段階に進んでおり、新規 TA'ZIZ 工業・化学ハブ内に開発されることとなる。容量は年間 100 万トンとなる。ADNOC は既に水素・アンモニア生産大手で、水素年間 300,000 トン以上をルワイス工業設備で生産している、と同社は述べた。アンモニアおよび 6 件の追加 TA'ZIZ 化学プロジェクト初期設計 (プレ FEED) 契約は、Wood に発注されている。並行して ADNOC はこのプロジェクト向けに自社のルワイス設備からブルー水素を供給することについて事業化調査を実施する。同プロジェクト最終投資決定 (FID) は 2022 年、稼働開始は 2025 年を目標としている。

[アフリカ]

Predator Gas Ventures Morocco Branch (PGVMB) は、2021 年 5 月 24 日、モロッコのエネルギー・鉱業省による 4 月 26 日付 LNG 輸入のための「FSRU 建設・操業関心表明」に応募する準備をしていることを発表した。

Equinor、アルジェリア Sonatrach は、5 月 18 日、同国内外の石油・ガス探査・生産での協力に関して基本合意 (MoU) を締結した、と発表した。温室効果ガス排出・カーボン管理、産業安全管理、水素回収向上技術、石油操業高効率化での協力も含まれる。Sonatrach、中国石化 (Sinopec) は、5 月 20 日、基本合意骨子、意思覚書 (MOU) を締結したことを発表した。前者は Illizi 地区 Zarzaitine 油田でのパートナーシップ強化を目指す。MOU は、石油・ガス探査・生産プロジェクトでのパートナーシップ拡充、アルジェリア内外での LNG・石化分野での新規機会探求のため締結された。

ナイジェリア石油類資源省 (DPR) は、5 月 11 日、UTM Offshore Limited ・ JGC Corporation (UK) Limited (日揮) 間のプレ FEED (基本設計) 契約オンライン締結式典で、自国初の浮体式 LNG 生産設備として支持することを表明した。UTM はさらに JGC のプレ FEED 第三者検証のため KBR Engineering とも契約を締結した。プロジェクトは 2025 年完成見込み、天然ガス・コンデンセート日量 1.76 億立方フィート (年間 134 万トン) を

生産する見込みとされる。

bp、Eni は、2021 年 5 月 19 日、アンゴラでの石油、ガス、LNG 関連上流部門統合の話し合いを進める基本合意 (MoU) を締結したことを発表した。

Kosmos Energy は、5 月 10 日、第 1 四半期業績報告の中で、モーリタニア・セネガルの Greater Tortue Ahmeyim LNG プロジェクト第 1 段階が、58%進捗し、FPSO、浮体 LNG 船舶、ハブ基地 (防波堤)、海底インフラストラクチャーの全面で大きく進展している、と述べた。同日、Petrofac は、Greater Tortue Ahmeyim (GTA) プロジェクト向け、操業手順の作成に関して bp と契約を確保した、と発表した。

南アフリカ Sasol は、5 月 14 日、子会社 Sasol South Africa (SSA) が、Republic of Mozambique Pipeline Company (ROMPCO) での 30%出資分を売却する契約を締結したと発表した。ROMPCO は、SSA (50%)、Companhia Mocambiçana de Gasoduto S.A. S.A.R.L (CMG) (25%)、South African Gas Development Company (SOC) Limited (iGas) (25%) 間の合弁事業で、モザンビークから南アフリカへの 865 km ガス幹線パイプラインを所有する。SSA は、ROMPCO における 30%分を Reatile Group Proprietary Limited ・ African Infrastructure Investment Managers Proprietary Limited が管理する IDEAS Fund で構成される投資機関に売却することに合意した。SSA は ROMPCO における残り 20%持分を維持し、同パイプラインの操業・メンテナンスを続ける。

[欧州・ロシア]

2021 年 5 月末、日 EU 首脳会談で、両者のグリーンアライアンスの発表があった。

FSR (欧州大学院フローレンス規制学科) は、5 月 18 日、新たな欧州委員会 (EC) のプロジェクト LNGnet が、5 月 25 日に開始することを発表した。目的は、流動性ある、柔軟な、透明性あるグローバル LNG 市場を促進することとなる。

SSE Thermal、Equinor は、5 月 11 日、英国でも炭素回収技術を織り込む初期の発電設備となる可能性が高い新規低炭素発電設備を Peterhead に開発する計画を、明らかにした。Peterhead CCS 発電設備は、炭素回収技術を織り込む新規 900 MW ガス火力発電設備として計画されている。年間 150 万トンの CO₂ を回収することで、2030 年までに年間 1000 万トンの回収という英国政府目標の 15%を実現することとなる。2026 年までに稼働開始する可能性がある。

Eni、Progressive Energy Limited は、5 月 27 日、HyNet North West 低カーボンクラスタープロジェクト内での CCS をさらに加速する枠組協定の締結を発表した。Eni は両社の Liverpool Bay 資産での CO₂ 陸上・海上輸送、貯蔵を開発・操業する。Progressive Energy は回収および水素の観点を主導・調整することとなる。

インドの超低温技術企業 INOXVA は、5 月 31 日、英国初の多機能型超小型 LNG 基地を、スコットランドの Kyleakin に、MOWI Scotland 社向けに、コンサルタンシー企業 Fuelgarden の監督下で、稼働開始した、と発表した。MOWI は世界最大級の海産物食品

企業、世界最大のサーモン養殖企業である。INOXCVA は一括請負で同基地を建設、1000 m³ 真空遮蔽式貯蔵タンク 2 基、船舶用バンカリングステーション、300 m 真空覆型配管方式、トレーラー積み込みステーション、気化設備を備える。小型船舶、セミトレーラー、IMO コンテナにより LNG を引き取ることができる。

Shell は、5 月 26 日、自社が気象変動の一部に責任あり、CO₂ 排出量を 2019 年水準から 2030 年までに 45%削減すべきとするオランダ法廷判断に控訴する、と述べた。

日本郵船 (NYK) は、5 月 13 日、子会社 NYK Bulkship (Asia) が保有するメタノール専用タンカー Takaroa Sun が、傭船者 Waterfront Shipping Company Limited 主導の下、オランダ・ロッテルダム港、ターミナル会社 Royal Vopak、バージ会社 TankMatch B.V. の協力を得て、同港において世界初となる Barge to Ship 方式によるメタノール燃料供給を、5 月 10 日に実施したことを発表した。

Titan LNG は、5 月 3 日、Zeebrugge 港・イングリッシュ海峡の諸港の LNG 燃料供給容量を増加すべく、新規 LNG バンカリングバージ Titan Krios の開発入札を発表した。この新船は、複数のタンクにより LNG、バイオ LNG を区分して運用する。小型海洋 LNG バンカー船舶として容量 4,200 m³ を持つ。引き渡しは 2023 年の見込み。

Fluxys は、5 月 20 日、Zeebrugge LNG 基地にさらに 4 件のトラック積み込み設備が建設される、と発表した。2024 年利用開始予定。

フランス Elengy は、5 月 17 日、Montoir LNG 基地と幹線パイプラインを結ぶパイプの接続部に漏洩があり、当局に届け出たと発表した。同社は同月 4 日に幹線パイプラインへの送出を止めることを決めた、と述べた。早期再開に向け作業を進めている。

Total は、5 月 3 日、フランスで初の LNG バンカリング船舶からコンテナ船舶への燃料補給を実施した、と発表した。同社 LNG バンカリング船舶 Gas Agility が、4 月 30 日、ダンケルク港で、CMA CGM JACQUES SAADE に 16,400 m³ の LNG を積み込んだ。

Total は、5 月 26 日、水素モビリティを進める企業 Hyssetco 株式 20%取得を発表した。Hyssetco は 2015 年設立、世界最大の水素タクシー車両所有企業で、Hype ブランドでイルドフランス地域で営業、水素ステーション群も所有している。他株主は STEP (パリ地域電動タクシー社)、Air Liquide、トヨタ、Kouros である。

Total は、2021 年 5 月 28 日、TotalEnergies への改称を株主総会が決議したと発表。

ドイツ Open Grid Europe GmbH (75%)・Thyssengas GmbH (25%) 合弁プロジェクト ZEELINK は、5 月 6 日、全長 216 km の ZEELINK パイプラインが稼働開始した、と発表した。L ガス (低熱量ガス) から H ガス (高熱量ガス) への移行が、オランダ Groningen ガス田生産減少のため、必要となっている。ZEELINK は、Zeebrugge LNG 基地含め、北方、南方、西方からの H ガスの新たな流れを接続できるようにする。

ドイツ財務相、環境相は、2019 年気象保護法で設定された諸目標を違憲と判断した憲法裁判所判断の 1 週間後、2021 年 5 月 5 日、2045 年までに自国を気象中立とする新法案を発表した。新法案には、2030 年までに排出量を 1990 年比 65%削減、2040 年までに 88%削

減達成、2045 年までに気象中立実現を含む。これは従来目標より 5 年前倒しとなる。

Equinor は、2021 年 5 月 6 日、Vårgrønn と、北海ノルウェー領 Utsira・Haugalandet 西沖 Utsira Nord の浮体風力発電開発での協力協定を締結した、と発表した。Vårgrønn は、HitecVision・Eni が設立した再生可能エネルギー企業である。

Horisont Energi、Equinor は、5 月 19 日、ノルウェー北沖 Polaris 炭素輸送・貯蔵プロジェクトをさらに進める協定を締結したことを発表した。Polaris は 1 億トンを超える炭素貯蔵容量を持つ見込み。この沖合炭素貯蔵層は、欧州初の世界水準のカーボンニュートラルアンモニア製造設備となる Barents Blue プロジェクト計画の一環である。開発されれば Barents Blue はアンモニア日量 3000 トンの生産容量を持つこととなる。第 1 段階では、Barents South 地域からの天然ガスをカーボンニュートラルブルーアンモニアに転換する。現在事業化調査の最終段階にあり、まもなくコンセプト段階に入り、Polaris・Barents Blue 投資決定は 2022 年末を見込む。

ノルウェー Gasnor は、2021 年 5 月 14 日、Nordlaks 所有の新造 LNG/バッテリー ハイブリッド漁業船舶 Bjørg Pauline 向けの LNG バンカリングを実施したことを発表した。

Wärtsilä は、5 月 26 日、Scandinavian Biogas Group 子会社ノルウェー Biokraft 向けにバイオガス液化設備建設を請け負う、と発表した。容量は日量 25 トンと、同国 Skogn のバイオ LNG 生産容量を日量 50 トンに 2 倍増する。2022 年 5 月の引き渡しを予定。

American Bureau of Shipping、A.P. Møller - Mærsk、MAN Energy Solutions、三菱重工業、NYK、Seaspan、Total 等のパートナー企業 7 社は、5 月 12 日、Mærsk Mc-Kinney Møller Center for Zero Carbon Shipping を通じ、既存船舶使用燃料の脱炭素化に向けた技術・経済・環境的な評価を行うプロジェクトを開始したことを発表した。従来型燃料油の転換、LNG/LPG 等の新燃料との統合に取り組み、アンモニアやメタノール、CCUS など将来の道筋を示すものとしている。

Maersk Drilling は、5 月 17 日、ジャックアップリグ Maersk Guardian (新称 Guardian) を New Fortress Energy (NFE) に売却、両社はさらに、ジャックアップリグ Mærsk Gallant についても 2021 年 6 月完結を想定して合意したことを発表した。NFE はこれらのリグを、Fast LNG プロジェクト用途に、非掘削目的で使う。

Ørsted は、5 月 17 日、コペンハーゲン H2RES プロジェクト建設を開始した、と発表した。同社にとり初の再生可能水素プロジェクトである。H2RES は容量 2 MW を持つこととなる。日量 1,000 kg の再生可能水素を生産する。年末に水素生産を開始する見込み。

三菱パワー、Iberdrola は、5 月 20 日、世界各地域における産業分野の脱炭素化促進のため、再生可能エネルギーをベースとした競争力のあるクリーンかつ安全なエネルギーソリューションの共同開発に向けて協業することで合意したことを発表した。水電解生成による水素(グリーン水素)の製造設備、バッテリー貯蔵システム、電化熱供給装置の開発を進めるとしている。

Eni は、第 15 回目となる自主的サステナビリティ報告書 "Eni for 2020" を発行した。

自社エネルギー製品・操業の脱炭素化は、既存活動・技術により実現される、と述べている。今後 4 年間にバイオ精製容量 2 倍増、バイオメタン・水素生産・販売の増加、2050 年までに再生可能エネルギー容量を 60 GW まで成長、CO₂ 貯蔵・利用の開発につながるとした。

イタリア Snam は、2021 年 5 月 19 日、世界で初の製鐵向け 30%天然ガス・水素混合試験を、Forgiatura A. Vienna 設備で実施した、と発表した。

Equinor は、5 月 5 日、ポーランドの陸上再生可能エネルギー開発企業 Wento の株式 100%を民間投資企業 Enterprise Investors から買い取ることに合意した、と発表した。Wento の事業計画には、様々な開発段階にある太陽光発電 1.6 GW 分が含まれる。Equinor は、5 月 4 日、ポーランドのエネルギー規制機関 (ERO) が、Equinor ・ Polenergia による Bałtyk II ・ Bałtyk III プロジェクトに、同国洋上風力開発計画第 1 段階での補助金契約 (CfD) を認めた、と発表した。両プロジェクトには合計 1440 MW 容量のポテンシャルがあり、同国で洋上風力支援制度を確保する初期案件となる。必要な契約、許可の確保、両社の最終投資決定 (FID) を条件に、建設は早ければ 2024 年に開始され得る。

ロシア Gazprom は、4 月 29 日、投資家向け説明会で、2020 年自社の欧州向けガス輸出の 13%が石油連動価格と、前年の 16.5%から減少したことを明らかにした。80%以上が、様々なトレーディングハブ連動となっている、と同社は述べた。また同社は、2021 年 5 月 11 日、取締役会が自社の持続性ある開発方針を承認した、と発表した。

Gazprom は、5 月 21 日、レニングラード地方 Ust-Luga 近くでの、エタン含有ガス処理設備 (CPECG) 建設が開始されたことを発表した。CPECG は 2 件の事業で構成される。1 件目が天然ガス処理・液化統合設備 (GPC) (Gazprom ・ RusGazDobycha 間の合弁事業 RusKhimAlyans が操業を担当)、2 件目がガス化学設備 (GCC) (RusGazDobycha 子会社 Baltic Chemical Complex が操業を担当) である。GPC はガス処理容量年間 450 億 m³、液化容量年間 1300 万トンを持つこととなる。処理後の残りガス年間 180 億 m³が Gazprom のガス幹線輸送網に向かうこととなる。分離後のガスは、ポリマー年間 300 万トン以上の容量を持つこととなる GCC に供給される。

Gazprom Neft は、5 月 28 日、自国初の、LNG 燃料で運航し、他船舶に LNG 燃料供給する船舶が、海上試験を完了した、と発表した。

ロシア NOVATEK は、6 月 2 日、NOVATEK Gas & Power Asia ・浙江省能源集団 (Zhejiang Energy Gas Group) 間の、Arctic LNG 2 プロジェクトからの LNG 長期供給に関して基本合意 (HOA) を発表した。最大年間 100 万トン・15 年間・DES 条件で主要諸条件を規定する。さらに同日 NOVATEK は、NOVATEK Gas & Power Asia、Glencore が、Arctic LNG 2 プロジェクトから年間 50 万トン超の LNG について、長期供給の基本合意 (HOA) を締結したことを発表した。

NOVATEK、TotalEnergies は、6 月 3 日、脱炭素化、水素、再生可能エネルギーに関して覚書 (MOU) 締結を発表した。両社は、共同プロジェクトにて CCS 技術実施により温室効果ガスを削減すること、共同 LNG プロジェクトにて再生可能エネルギー源を活用するこ

とに関して協力する意図を表明した。さらに、低炭素燃料として水素生産・利用、LNG 含むカーボンニュートラル製品販売を検討するとしている。廃熱利用等、LNG 生産用発電効率改善のための技術ソリューションが検討される。また、ガスタービン機器を水素燃料に転換する検討を想定している。さらに両社は、LNG プロジェクトのカーボンフットプリントを削減すべく、風力発電設備等、再生可能エネルギー源を建設するソリューションの検討にも合意した。同日両社は、Arctic Transshipment LLC への参加株式 10%を後者に譲渡する株式売買契約を発表した。Arctic Transshipment LLC は、現在カムチャッカ、ムルマンスク地方で建設中の LNG 積み替え設備を操業する NOVATEK の子会社。

Wärtsilä は、5 月 31 日、Arctic LNG 2 プロジェクト向け新造 LNG 輸送船舶 6 隻向けに、不活性ガス発生装置 (IGG)、無線・統合型航行システムを供給する、と発表した。この発注は 2021 年 4 月、大宇造船海洋 (DSME) が行った。

一方、欧州議会の 39 議員が、5 月 19 日付のフランス、ドイツ、イタリア政府向け公開書簡で、Arctic LNG 2 プロジェクトへの支援を拒絶することを求めた。

NOVATEK は、6 月 3 日、Fortum と、再生可能電力に関する覚書 (MOU) を締結したことを発表した。Cryogas-Vysotsk LNG プロジェクト等、NOVATEK が、Fortum のロシアでの再生可能電力設備で発電された電力を購入することを想定している。Fortum および Vysotsk の LNG 設備における合弁事業により風力発電で生まれたグリーン電力を用いることで、NOVATEK は自社 LNG 顧客に、スコープ 2 カーボンフットプリントを削減した、より持続性高い製品をオファーできることとなる、と NOVATEK は述べた。

NOVATEK は、6 月 4 日、レニングラード地方との間で、同地方の社会・経済開発を対象として、協力協定を締結した、と発表した。同社の Cryogas-Vysotsk LNG 設備、Ust-Luga ガスコンデンセート分離・出荷設備が同地方に属している。同日、NOVATEK は、Severstal との間で、温室効果ガス排出削減のため、代替・水素エネルギー分野での協力に関する基本合意 (MOU) を締結した、と発表した。天然ガスから、あるいは CCS 技術利用により、ブルー水素生産のため共同試験プロジェクトを実施する、としている。

さらに同日、NOVATEK は、PJSC Sberbank、Gazprombank との間で、ヤマル半島でのガス化学設備建設への資金調達に関して基本合意 (MOU) を締結したことを発表した。各社は、Sabetta 近くに低炭素アンモニア、水素、その他温室効果ガス排出を削減することになる他化学製品を生産するガス化学設備を建設するため、資金調達を行う計画である。NOVATEK は、同日、Sberbank との間で、ESG 分野での協力に関して基本合意 (MOU) を締結した、と発表した。

ロシア NOVATEK は、6 月 4 日、Gazprom Neft との間で、NOVATEK が、Gazpromneft Sakhalin の North-Vrangelievskiy 鉱区に持つ地質調査・探査・生産ライセンスの 49%参加権を取得する取引を締結した、と発表した。

ロシア Gazprom は、5 月 27 日、Power of Siberia ガスパイプラインの Kovyktinskoye ・Chayandinskoye ガス田間 803.4 km 区間中 261 km が建設された、と発表した。同社は、

Kovyktinskoye ガス田が 2022 年末、Power of Siberia に接続される、と述べた。

[南米]

Accelerate Energy は、2021 年 6 月 2 日、アルゼンチン Bahía Blanca で自社浮体貯蔵・気化機器 (FSRU) Exemplar の稼働を開始した、と発表した。

Equinor は、6 月 1 日、自社、ExxonMobil、Petrogal Brasil、Pré-sal Petróleo SA (PPSA) がブラジルのプレソルト Santos 地域の Bacalhau 油田第 1 段階開発を決定した、と発表した。プレソルト地域で外国企業オペレーターによる最初の開発となる。

Invenergy、BW LNG は、5 月 12 日、IDB Invest との間で、エルサルバドル Energía del Pacífico (EDP) LNG 発電プロジェクトの一環となる浮体貯蔵・気化機器 (FSRU) 資金調達のパッケージに合意した、と発表した。輸送船舶 BW Tatiana LNG が FSRU に転換改造され、同国ソンソナテ県アカフトラ港湾に恒久的に繋留されることとなる。

参考資料: 各社発表

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp